

母親委員会だより

平成22年7月発行
担当 上条小学校



庭に蒔いたひまわりの種がいつのまにか黄色の花を咲かせ、夏の訪れを教えてくれています。夏休みも始まりますね。皆様、夏の計画は整っていますでしょうか。

今年も新たなメンバーで母親委員会がスタート致しました。母親委員会では、参加した研修会・講演会の報告や公開講座の内容を少しでも多く、の方に知っていただくために委員会だよりを作成しています。他校との交流の架け橋になるように、また、保護者の皆様と子供達が気持ちを寄り添える様な情報を提供できればと思っております。至らない点も多々ありますが、一年間よろしくお願い致します。

 **母親委員とは？** 春日井市内を15ブロックに分けての活動が中心です。我が中部中ブロックは、上条小・小野小・勝川小・中部中の4校で活動しています。互いの公開講座に参加しあったり、ブロック研修会を開いたりして情報を収集し、共有して親睦を深めています。



中部中学校ふれあい教育セミナー

「校長先生との対話会」

森 乙平先生

6月3日(木) 中部中学校校長室にて校長先生との対話会が開かれました。普段あまり入ることのできない校長室で和やかな雰囲気の中、進みました。「学校で頑張っています」～中部中の子どもたち～というテーマで最近の生徒の様子(主に修学旅行でのエピソードや部活動での頑張りに関するお話)がありました。校長先生の教師生活の中で印象に残っている生徒との事や、ご自身の子育てについてのお話もあり、あっという間の時間でした。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

父母と教師の教育を語る会

「今いちど命の大切さについて考える」

石崎 豊 氏 ～ 私の出会った子どもたち ～

6月26日(土) 落語家の切磋亭琢磨さんから話を聞きました。30年に渡る教師生活の中で教え子を病気で亡くしたり、奥様をガンで亡くしたりした経験から「命の大切さ」を話されました。実話をもとにした笑いあり、涙ありの高座でした。その後の対話集会の中で他校の方と、学校における問題・家庭における問題を実践レベルで話し合いました。核家族化が進み身近な大切な人の「死」を経験することの少ない時代です。だからこそ「命の大切さ」について語り合うことの重要性を改めて感じました。また、保護者と教師が一堂に会して話し合うことができました。短い時間でしたがとても有意義でした。

市P連研修会

「世界がもし100人の村だったら」

～ あなたもここに生きています ～



6月23日(水) 作家であり翻訳家でもある池田香代子さんの講演を聞きました。「世界がもし100人の村だったら」がベストセラーになり、その印税で難民申請者の支援をする傍ら執筆活動・講演活動をされています。第二次世界大戦後、世界中の戦争による犠牲になった死者のうち、80%が子どもと女性であるということをご存知でしたか？日本の子どもたちがいかに平和な社会に暮らし、輝かしい将来を約束されているのか、そして秘めた才能を持っているかを改めて知らされました。世界の子どもたちが幸せになるためには何をしたらいいのかを考えさせられる内容でした。最後に本の一部を朗読して下さり心にグッとくる講演でした。

上条小学校 公開講座



「プラス思考になるための気持ちトレーニング」

講師 親業インストラクター 太田智恵子先生

6月18日(金)上条小学校にて、『プラス思考になるための気持ちトレーニング』というテーマで公開講座を開きました。講師は、ご自身も2男4女の母であり、親業インストラクターの太田智恵子先生です。

お話をただ聞いているだけの講演会と違い、まずは、グループでのディスカッションからはじまりました。同じテーブルに座っている者同士が挨拶からはじめ、先生の言葉に誘導されながら、『プラス思考の人とはどういう人か?』と大きな紙に書き出し、『あなたのストレス発散法は?』と更に4人に分かれて話し合いをしたりしました。ここにその時出た「ストレス発散法」の良い例と悪い例を挙げておきますね。皆様も今後の参考にしてみてくださいね。まず良い例は、「作品を作る事。(料理・菓子作り・手芸関係・園芸関係・芸術関係等…趣味に没頭)旅行に行ったりリフレッシュする事。(のんびり、ゆったり、自分にご褒美的なものが良い)スポーツ等(身体を動かす事)。」悪い例は、「依存する事。(お酒・ゲーム・ギャンブル性のあるもの)」どれも、嗜む程度なら良いのですが、深みにはまると、身体を壊したり、心を壊したりしかねない危険性があるからだそうです。



続いて『私の嫌なところ、変えたいと思うところ＝視点を増やす』というテーマで、自分の嫌なところを紙に書き出し、4人グループでお互い“嫌な部分、見方を変えて良い部分にして教えあう”事をしました。←参加された方の中には、この部分がとても印象に残っている方も多かった様です。講座終了後のアンケートを少し紹介しますと、「自分のマイナス面のつきあい方…」「ありのままの自分でいい」「マイナス面、見方を変えてプラス思考に…」「マイナス面もあっていい」「見方を変えれば、世界(視野)が広がる」

「プラス思考」と言っても、常に前向き、頑張り続けるという訳ではなくて、人は皆完璧ではないのだし、同じでもないのだから、駄目な自分、出来ない自分(見方を変えたらとても素敵☆な部分かも…)もしっかりと受け入れ、自分に無理をさせる事なく、自分の今のペースで出来る事からやってみる。先生は、コップに入った水の話もしていました。コップに水が半分入っています。この状態を見て、「ああ！もう半分になってしまった！！」と受け取るか、「ああ！良かった！まだ半分もある！！」と受け取るか。同じ状態でも、視点を試してみただけで、こんなにも幸せ感が違います。私もこの話がけっこう気に入っています。お財布に例えて日々使っています(笑)。

最後に、『人の気持ち』『聞く力』『心のキャッチボール』を実践しました。まず、「前向き、肯定的な気持ち」「後ろ向き、否定的な気持ち」を皆で紙に書き出しました。いつのまにか、視点が自分から子供へと変わっていました。そのまま、ロールプレイングに。グループの中で順番に母親役、隣の人の子供役。順番に交代して母の気持ち、子供の気持ちを体験していきます。母の台詞「あーあ、疲れたなあ。ご飯作るの嫌だなあ…」それに対して子供の台詞は6種類、それぞれ、「指示、命令」「説教」「非難」「同意」「提案」「質問、尋問」で返されます。そしてその言葉に対してどう思ったかを、また皆でディスカッションする。そして、一番理想的な言葉。「援助的(能動的)な聞き方」疲れた母の気持ちに寄り添った言葉。「ご飯作れないくらい疲れたの?」ロールプレイングでこの言葉を言ってもらくと、すごく嬉しくて安心感があって逆に頑張りたくなりました(笑)。他にも、「注意を向ける」「沈黙」「うなずき」「くりかえす」「言い換える」「気持ちをくむ」等の聞き方もありました。先生は、このやり取りを、『心のキャッチボール…(白いボールが来たら白いボールを…)』とプリントに書かれていました。

先生は、「聞く力」が育てば、「話す力」が育つのだと話されていました。近所づきあいも少なくなり、家族間の会話もいつの間にか少なくなっている現代社会において、子供達の「聞く力・話す力」の必要性が意外と未来を明るくする鍵なのかもしれませんね。

今日から子供に対して、家族に対して、社会に対して…「聞く力」を意識しながら私も頑張りたいと思いました。太田先生の講座はまさに「目から鱗」の講座でした。太田先生、貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。お蔭様で大盛況の公開講座でした。(感謝)。



市P連のホームページでは他ブロックの母親委員会だよりを紹介しています。ぜひ一度ご覧になって下さい。

<http://www.schoolweb.ne.jp/kasugai/pta/>

